

国際村だより

DEWA SHONAI INTERNATIONAL FORUM



国際村音楽祭 インドネシア・バリ島の伝統音楽と舞踊 バリ・プサカ

dewashonai



国際村だより もくじ

- P 2 : 出羽庄内国際村音楽祭2016
- P 3 : 日本語スピーチコンテストin庄内
- P 4 : 日本語教室の活動
- P 5 : 中国語集中講座
せかいの台所～インド・ハンガリー
- P 6 : フレンドシップサロン・韓国チャーター便・器の会
- P 7 : 私達の活動シリーズ⑧国際ソロプチミスト鶴岡
おたよりリレー シェーン・ドールさん
- P 8 : せかいの台所レシピシリーズ～ハンガリー
外国語講座第3期募集

出羽庄内国際村

- ホストファミリー
- イベントボランティア
- コミュニティ通訳
- 財団賛助会員

随 時 募 集 中

出羽庄内国際交流財団会報

vol. 70

平成28年12月15日発行



出羽庄内国際村音楽祭2016

インドネシア・バリ島の伝統音楽と舞踊

バリ・プサカ



普段は聴く機会の少ない世界の民族音楽や伝統舞踊と出会える毎年恒例の国際村音楽祭。22回目を迎える今年は9月18日(日)に、バリ舞踊団体「BALI・PUSAKA(バリ・プサカ)」によるインドネシアのバリ島に伝わる伝統音楽ガムランとバリ舞踊を楽しんでいただきました。

ガムランとは、インドネシア各地の様々な打楽器合奏の総称であり冠婚葬祭などに際し盛んに演奏されており、また、バリ舞踊は、神々と深く関わってきた歴史物語が神秘的かつ華麗に演じられるものです。

当日は、ヒンズー教三大神の一つである風の神シワ神の喜怒哀楽を表す「シワ・ナタラジャ」や、森の王である虎の踊り「マルガパティ」など8演目がガムラン演奏に合わせ披露されるとともに、観客がステージに誘われ一緒に踊る場面も設けられ、会場は大いに盛り上がりました。また、最後は出演者が出口で観客を見送りながら記念撮影にも応じ、和やかな雰囲気の中で終了しました。

また、ロビーでは、インドネシア共和国大使館の提供による各種パンフレットなどの展示による、インドネシアの文化や観光などの紹介や、インドネシア料理の提供も行われました。今年は、音楽祭始まって以来初めて、完売によりチケットの前売りを停止する中、300人を超える多くの観客の皆様からエキゾチックで異国情緒たよう夕べを過ごしていただきました。

インドネシア料理・飲物

当日は、インドネシアの出身者がボランティアの方々と作った本格的なインドネシア料理と飲物が販売され、目と耳に加え、舌でもインドネシアを体感いただきました。提供された料理は、祝いごとの際に作られるウコンとココナッツミルクで炊いた黄色いご飯「ナシクニン」や、大豆を発酵させたインドネシアの

納豆と言われる「テンペ」、それにスパイシーなチキンやエビせんなどのインドネシア料理を詰め合わせた弁当などでしたが、あっという間に完売し、ピンタンビールやバリコーヒーなどの飲物と合わせ、大変好評をいただきました。



実行委員長より

田中 宏

国際理解・国際交流への関心を広めるために始まった出羽庄内国際村音楽祭は今年で22回目。この長い歴史を無事に受け継ぎ、盛況に終えることができてホッとしています。ご来場の皆様、出演者、実行委員、関係各位に心から感謝致します。また当日は、超満員となったため十分な数の当日券を販売できず、やむなく入場をお断りした方々にお詫び申し上げます。

今回はインドネシア・バリ島の文化を体感できる機会を目指し、目(舞踊)と耳(音楽)と舌(料理)で楽しんで!をキャッチコピーに、県内のTVやラジオに積極的に出演してPRに努めました。民族音楽という特殊なジャンルだからこそ魅力的であり、メディアを活用して広く来場者を発掘することが重要だと感じています。

国際村音楽祭は手作りの音楽祭です。実行委員の仲間も随時募集中ですので、感動を是非一緒に♪

11/20
SUN

第6回 日本語スピーチコンテストin庄内



11月20日に開催された《第6回日本語スピーチコンテストin庄内》。たくさんのお客様が集まる中、12名の外国出身の出場者が、日ごろ感じていることを日本語で発表しました。

平成23年に鶴岡市の国際村から始まった当スピーチコンテスト。毎年開催地を移しながら庄内地域を一巡し、2巡目第1回目としてまた鶴岡市に戻ってきました。

今年は過去最多の12名（アメリカ、インドネシア、エジプト、韓国、中国、ベトナムの6か国出身）が出場しました。スピーチの内容は様々で、体験を通して見たインドネシアと日本の出産・子育ての文化の比較や、運転免許を取得した時の大変だった話、交通事故に遭った時に親切に面倒をみてくれた日本人と出会った時の話、庄内の山の魅力について等、日々の生活で感じている事などを日本語で発表しました。



審査の間の、迫力ある津軽三弦奏会の三味線演奏

このコンテストでは日本語能力より話の内容を重視していますが、出場者の方のレベルが年々アップしており、どの方のお話も大変素晴らしく、審査で順位を決定するのが大変だったそうです。会場にいらした皆さまも、外国出身の方々の視点から見た日本での生活のお話を聞いて、いろいろ考えさせられた部分も多いのではないのでしょうか。来年は庄内町で開催される当コンテスト。どんな発表が聞けるのか、今から楽しみです。

今年のスピーチコンテストの各出場者のスピーチ内容は、後日、庄内日報に掲載される予定です。



最後は出場者と審査委員で記念撮影。皆さん、お疲れ様でした！



受賞者には、大賞の副賞としてイタリアンレストラン・アルケッチャーノのペアディナー券、優秀賞の副賞として商品券が贈られました。

受賞コメント

大賞受賞



ユニタ・クリスタンティ・ウィディアニルムさん
(インドネシア出身)

《演題》「今」しかないでしょ！

(大賞受賞が)信じられないですね。でも、嬉しいです。やっぱり、他の人の支えがあったからこそここまで出来たと思います。本当に、サポートしてくれた方々、日本語の先生、ありがとうございました。

優秀賞受賞



フィリップ・ハリーさん
(アメリカ出身)

《演題》結局田舎に来て良かった！

優秀賞をとると思わなかったので、びっくりしました。でも、楽しかったです。ありがとうございました。

優秀賞受賞



池田 陽子さん
(中国出身)

《演題》逃げようか、立ち向かおうか

20年近く庄内に住んでいますが、初めて日本語スピーチに出た事がすごく光栄です。すごく悩みましたが、テーマのように逃げないで、この場で自分の気持ちを発表できすごく嬉しいです。これからも自分が何かに役立つよう、できる事を頑張っていきたいです。

特別賞受賞



チトラ・ギラン・クルアニさん
(インドネシア出身)

《演題》インドネシアと日本の子育て

スピーチコンテストは初めてだから緊張しました。皆さん、旦那さん、日本語の先生、どうもありがとうございました。

日本語教室の

さまざまな活動を紹介します

今年で22年目を迎えた出羽庄内国際村の日本語教室。今年も80名を超える外国出身者の皆さんと30名を超える指導ボランティアの皆さんが、毎週日本語の勉強をしています。これまでも、テキストを使った学習だけでなく、季節の行事、家庭料理の教室なども行ってきました。現在は継続的に「書道教室」と「バドミントン部」を行っています。それぞれの活動を紹介します。

● バドミントン部

2015年9月から、日本語教室の有志の皆さんで「バドミントン部」を始めました。基本的に週に1回活動しています。現在の参加者は約20名。日本語教室の学習者やボランティア、その友人であれば誰でも参加できます。

○参加者からひと言・・・

ベトナムの留学生のトアンです。バドミントンが大好きです。毎週日曜日、14時から18時までバドミントンをしています。いろいろな国の人が参加しています。本当に楽しいです。みんなバドミントンをしながらおしゃべりをして、外国の文化を学んでいます。

います。バドミントンをやった後は、自分が元気になる感じがします。皆さん、お時間があれば一緒にバドミントンをしましょう。

ムエン・シー・トアン

● 書道教室

2016年1月に日本語教室で「書初め」をしたことからスタートした「書道教室」。現在は日本語教室の学習者とボランティア合わせて9名が参加しています。月に一度、季節に合った言葉などを教えてもらい、作品は毎回ロビーに掲示。少しずつ自分らしく書けるようになってきた作品を見ながら、楽しく学んでいます。



毎年恒例

ぶどう狩り&いも煮会



9月25日(土)、日本語教室に通う学習者の皆さんとその家族、指導ボランティア、ワールドコミュニケーションクラブの子ども達と一緒に櫛引の観光果樹園へぶどう狩りに行きました。この日はとても天気が良く、色々な種類のぶどうを食べ比べたり、自分で採ったぶどうをお土産に買って帰る参加者もありました。

いつもは真剣に日本語を勉強し



ている学習者も、この日はのびのびと楽しいひとときを過ごしました。お昼はあつあつの芋煮とおにぎりを食べ、もうおなかいっぱい！庄内の秋の味覚を堪能した一日でした。

今回は、ワールドコミュニケーションクラブの子ども達も一緒に参加して、様々な国の外国出身者と触れ合って交流する良い機会となりました。



10/2
SUN

中国語集中講座

～中国語を使って旅に出よう！～



10月2日(日)、毎年秋恒例の中国語集中講座が開講され、8名が参加しました。

今年は中国国内を旅行しているというテーマを設定し、「ホームステイ」「観光案内」「レストラン」「自由会話」のブースを設けて、場面に合った会話を中国出身の方と楽しんでもらいました。ブースでの会話を始める前にはウォーミングアップを兼ねて入国手続きの時間を設けました。そこで、参加者は協力者の講師とマンツーマンで、「何日滞在しますか?」「パスポートの顔写真と違うようですが?」など、本番さながらの会話を練習しました。入国審査を無事通り終えると、それぞれのブースに合った会話を楽しみました。

講座の後半では昨年好評だった、中国語の単語をいくつ思い出せるかというゲームをしました。参加者は



チームに分かれてお題に合った単語を考えます。思いついた単語を講師に伝え、講師はそれを紙に書き出し、たくさん単語を思いついたチームが勝ち、というゲームです。



来年度は韓国語での集中講座を予定しています。

～参加者からのコメント～

私は中国語が好きなのと中国出身の方々と話すことができるので、この講座には毎年参加しています。中国語を学んで良かったことは、約3年前に手術入院した時に、前日に眠れなかったのですが、もらった睡眠薬を飲まずに中国語の本だけでぐっすり眠ることが出来ました。そんな私を見て、掃除係の人が「大学の先生ですか?」と私に尋ねてくれました。(笑) 小島秀穂



料理を通して世界の文化について理解を深める講座

「せかいの台所」8月、10月の実施報告

インド料理



8月の「せかいの台所」は、インド料理です。インド・マハラシュトラ州出身のアビジット・ムレイさんにインドの家庭でよく食べられているAloo Tamatar Sabzi (ジャガイモとトマトの炒め煮)、Vermicelli Sevaiya Kheer (バーミセリ・プディング)の作り方を教えていただきました。

今回作ったサブジは一見黄色でカレーのように見えますが、カレーではないそうです。じゃがいも・トマト・玉ねぎを丁寧に炒めて煮込んだ、さっぱりとした味わいの一品。サブジと一緒に食べたのが、バスマティックライスと薄いパンのようなパラタ。その相性が抜群でした。

「バーミセリ」という細いパスタが入ったプディングはバターやナッツ類をたっぷり使い、味は濃厚で、さっぱり味のサブジにぴったりでした。



10月の「せかいの台所」はハンガリー料理です。ハンガリー・ブダペスト出身のジャネット先生に教えていただいたのはPaprikás Csirke (鶏肉のパプリカ煮)とMadartej (メレンゲを浮かべた「鳥のミルク」)の2品でした。この「せかいの台所」でハンガリー料理を作るのは初めてで、参加者のみなさんは興味津々。

パプリカシ・チルケは、鶏肉と野菜をハンガリー産のパプリカ粉で煮込んだ料理。手間をかけて生地から手作りのガルシュカは腰があり、パプリカシ・チルケをからめて食べると本当においしかったです。

モダルテイはとろとろのカスタードソースにメレンゲを浮かべ、プルプルという食感が印象に残る不思議なデザートでした。モダルテイの作り方は8ページで紹介しています。興味のある方は、ぜひ一度作ってみてください。



国際理解講座 フレンドシップサロン

南極大陸上陸 × ハンガリーへようこそ

不定期開催している、様々な分野で活躍されている方のお話を聞く会です。
今年は《南極大陸》と《ハンガリー》を実施。次回は《ケニア》を予定！



今年度第1回目のフレンドシップサロンは、世界各国の山々を登ったり、長年パワフルに活動されている木村喜代志さんをお招きし、《南極大陸上陸—沿岸の露岩地帯はペンギンの住处—》をテーマにお話いただきました（5月29日実施）。

南極大陸上陸ルート、費用、日数、必要物品等とても丁寧な説明で、南極大陸に向かう自分の姿が想像できる参加者の方も多かったのでは。年間たくさんの観光船が南極に行っている事や、青く光る美しい氷、赤い糞に染まったペンギンなど、驚く話や写真のオンパレード。

参加者からは南極だけでなく、木村さんが訪れた国々についての質問があり、楽しいお話に時間が短く感じられました。



第2回目のサロンテーマは《ハンガリーへようこそ！》。出羽三山神社でのインターンシップのために来日されていたラースロー・ジャネットさんに、ハンガリーのお話をいただきました（10月16日実施）。

庄内では遊佐町がハンガリーのソルノク市と姉妹都市で交流がありますが、もっと多くの庄内の人々がハンガリーを訪れて欲しいというジャネットさんの強い希望で、今回のフレンドシップサロンを行う事になりました。

ネットで検索した画像や動画を見ながら、ハンガリーの歴史や国歌、温泉などの観光地、刺繍、舞踊、料理など、いろいろな角度から見るハンガリーの魅力についてお話いただきました。

次回のサロンは1月15日(日)です。
お楽しみに！



ようこそ山形へ！

チャーター便歓迎行事でボランティア活躍！

9月14日(水)、10年ぶりに韓国から山形県へチャーター便が来ました。それに伴い国際村では、コ



ミュニティ通訳韓国グループのメンバーを派遣し、庄内空港での歓迎行事に協力しました。この日参加したボランティアは6名。「アンニョンハセヨ」などと声をかけながら、山形の地酒やリンゴジュースをふるまったりしてお出迎えをしました。今回のチャーター便は約160人が利用し、3泊4日の日程で観光をして帰



国の途に就いたようです。今後も海外からのチャーター便が増え、山形の魅力を味わってほしいものです。

12/4 器の会～秋編～ 日本の家庭料理を学ぼう

年に2回行っている日本の家庭料理を学ぶ講座「器の会」の秋編が12月4日に行われました。この度の会では、「手まり寿司」「茶わんむし」「あさりと小松菜の炒め煮」「かぼちゃのいとこ煮」の作り方を学びました。インドネシア、中国、タイ、マレーシア、ベトナムの5か国11名が参加しました。手まり寿司は、自分の分をラップを使ってその上に具材とご飯をのせてくるみました。みんな彩りの良いおいしそうな手まり寿司を作っていました。会食の時も自己紹介をしたり、



隣の人とお話をしたりして、楽しいひとときを過ごしました。

私たちの活動 ⑧

国際ソロプチミスト鶴岡

国際ソロプチミスト鶴岡は、来年認証30周年を迎えます。1988年1月10日、24名のメンバーでスタートし、以来毎年チャリティー事業を行い、収益を鶴岡市を始めとし、福祉施設、各団体等に贈呈しています。



「女性と女兒の明るい未来のために」というソロプチミストのテーマの下、社会福祉協議会を通じて児童図書や遊具など養護施設、児童館、

保育園への贈呈も続けています。また、学生ボランティアの高校生についても助成を行っています。

さて、当クラブの大切な活動として、国際村のワールドバザールの参加と、国際村を会場に行われる「チャリティー茶会」があります。チャリティー茶会は、抹茶席と紅茶席の二席が楽しめるふだん着茶会として初心者の方々からも大変好評です。

今年は、11月6日に行われ、260名程の皆さまよりおいでいただきました。

今後も地域の方々の暖かいお気持ちとソロプチミストへのご協力とご理解を賜り、ボランティア活動を進めてまいりたいと思います。



私たちと一緒に活動して下さる方も大歓迎です!!

どうぞ、お声がけ下さい。

〈お便りリレー〉

2014年4月から2015年12月まで 鶴岡在住

シェーン

ドール

Shayne A.P.Dahl さん

トロント大学

社会文化言語人類学博士課程

庄内での一年半の修験道の研究を終えてトロントに帰って来た私に、カナダの友人が「シェーン、日本から帰ってきた感想は？」と尋ねました。その時突然、庄内での生活の思い出が私の心から溢れ出しました。研究者として、また修行者として登った出羽三山、山から湧き出る水を飲んだこと、「ゆぽか」や「ぼつぼの湯」、「アイアイ」などの温泉、湯殿山での冷たい滝行、おいしい葡萄や米、だだちゃまめ、日本滞在の間に私の面倒を見てくれた国際村の友人たち、そしてもちろん私を外国からの兄弟として受け入れてくれた柔道の仲間たち。

カナダの友人が私にこの質問をした時、私はトロントの中心部にいて、摩天楼や車やトラック、急ぎ足の人々のいる環境に囲まれていました。私が庄内を思い返そうとすると、緑の色—深い深い緑—が私を圧倒しました。羽黒山の生まれ変わりの道とされる石段や爺杉、青々と繁った美しい林や流水の音が私を取り囲みました。雪を頂いた月山も目に浮かびました。その幻想からはっと我に返ったとき、私はその友人に答えました。「説明しても分かってもらえないかもしれないけど、世界の全てが自分の中にある、という感じだよ。

過去に居た場所なんだけれど、その場所は鮮明な夢のように、今もはっきり自分の中に生きているという感じがするんだ。」

ここトロントで窓からCNタワーを見ながら、コツコツと博士論文に取り組んでいますが、今でも庄内は私の心の中で生き生きとしていて、私自身が今も庄内や皆さんと共にあると感じます。家族に代わって、皆さんの世界を共有させていただいたこと、そして私達を温かく迎え入れてくださったことに感謝申し上げます。そしてまた鶴岡に戻ります！

I'll be back!



大網の森林教室で

せかいの台所 レシピシリーズ



ハンガリー料理

講師 ラースロー・ジャネットさん

(ハンガリー・ブダペスト出身)



10月1日に実施された「せかいの台所 ハンガリー料理」より、カスタードソースにメレンゲを浮かべた“モダルテイ”という不思議な食感のデザートをご紹介します。

モダルテイは“鳥のミルク”とも呼ばれています。冷やして食べても、温かいまま食べてもおいしい一品！



Madártej (モダルテイ)

【材料 約4人分】

○牛乳…1リットル

○砂糖…100g

○バニラエッセンス…適量

○卵…6個

○塩…適量

作り方

①卵を黄身と白身に分け、卵白に少し塩を入れて泡立て、砂糖を加えてメレンゲを作る。



②牛乳を鍋に入れ、バニラエッセンスと砂糖を加えて熱する。



沸騰したらスプーンでメレンゲを入れ、固まったらメレンゲを取り出し、鍋の火を止める。



③ボウルに卵黄と砂糖を入れて混ぜる。



④の牛乳を少しずつ加えながら、生地が白っぽくなるまでよく混ぜる。



④③を鍋に戻し、とろっとするまで温める。



⑤器に盛り、②の固めたメレンゲを浮かべて完成。

冬季(1月～3月) 外国語講座のご案内

◎入門コースに関しては、4月から1年をかけて学んでいます。事務局では見学(1回のみ無料)をおすすめしています。各講座 受講者3名より開講。まずは事務局までご連絡下さい。電話：0235-25-3600

英語

コース名	開始日(回数)	曜日	時間	金額
●初心者英会話 リック・アードマン先生	1/12 (10回)	木	19:00～20:30	13,000円
●レベルアップ中級英語 ソフィア・ラティフ先生	1/15 (7回)	日	18:00～19:30	9,100円

中国語

●入門 魏 本紅先生	1/11 (10回)	水	19:00～20:30	13,000円
●初級 楊 詠麗先生	1/13 (10回)	金	19:00～20:30	13,000円
●中級 楊 詠麗先生	1/7 (10回)	土	13:30～15:00	13,000円
●子どものための中国語 孫 志紅先生	1/8 (6回)	日	16:00～17:00	3,000円

韓国語

●入門 崔 鍾美先生	1/13 (10回)	金	19:00～20:30	13,000円
●初級 蔡 明子先生	1/13 (10回)	金	19:00～20:30	13,000円

◇気軽に参加できるフリートーク型講座は、英語(木・土)、中国語(木・土)、韓国語(土)、スペイン語(日)があります。日程はホームページやFacebookでご案内しております。《料金》10回券4,500円/5回券2,500円/1回500円